

学校だより



菜の花

川崎市立長沢小学校
令和6年6月28日
7月号

大人の役目

校長 中西 憲子



長沢小 HP

6年生が、国語でインタビューの学習をしています。テーマに「挨拶」を選んだグループが、インタビューにやってきました。私が「挨拶を大切にしている」と感じてくれていることを嬉しく思いました。これまで働いてきた学校の中で、長沢小学校の子どもたちが一番よく挨拶をします。笑顔で元気に挨拶ができる子が、長沢小学校には本当にたくさんいます。子どもたちがよく挨拶するのは、保護者の皆さんがよい挨拶のお手本だからです。行事や授業参観等で学校にいらしたとき、町で会ったときに、長沢小学校の保護者の皆さんはとてもよく挨拶をし、声をかけてくださいます。身近によいお手本があるのですから、子どもたちは自然に挨拶をする気持ちや態度が身に付いていきます。

大人の大切な役目の一つは、子どものお手本になることです。子どもが無意識のうちに身近な人の影響を受けることを「感化」といいます。大人が子どもに与える影響を意識して、望ましい方向に「感化」しようと心掛けることによって子どもの育ちに大きな効果が生じます。「挨拶をすることは大切だ」ということを身近な大人がお手本となってやってみせることで、子どもたちは挨拶をすることを当たり前のこととして吸収していきます。私たちも、子どもたちのお手本となるように笑顔で挨拶することを心掛けています。

大人の役目としてもう一つ大切にしたいことは、子どもをほめることです。先日、給食室の水道が故障しました。応急処置で何とか水は出るようになったものの、お湯が出ない中での調理となりました。お湯が出ない一番の問題は、食後の食器洗いです。650人分の食器を5人の調理員が水だけで洗浄するのはたいへんな作業です。子どもたちにも協力してもらおうと、「今日は給食室のお湯が出ない」「食器洗いが少しでも楽になるようにお皿に食べ物が残らないようにして欲しい」と放送しました。子どもたちは、いつも以上にお皿をきれいにしてくれました。給食室を通る子どもたちは、調理員に「大丈夫ですか」「お湯は出るようになりましたか」と声をかけていました。調理員は子どもたちの優しさからエネルギーをたくさんもらいました。

長沢小学校の子どもたちを、相手の立場に立って考えたり労ったりできるように育てたいです。ここはほめどきです。ほめることで望ましい行動を増やしていくことは、「強化」といわれます。「アクシデントがあったときに自分に何ができるか考えること、相手を思いやることにつながるようにたくさんほめてください」と職員に伝えました。上手にほめるには、タイミングが大切です。また、「気付いているよ」という「承認」、「その通り」という「共感」、「すごいね」という「称賛」、「ありがとう」という「感謝」の四点も上手にほめるポイントです。ほめることで「強化」された行動は、安定的に習慣化されていきます。

大人である私たちの役目は重要です。身近な大人が誤った「感化」や「強化」を行うことはあってはなりません。子どもたちの健やかな成長のために、よいお手本となり、ほめて励ます言葉掛けがたくさんできる大人でありたいです。